

TAC公認内部監査人 (CIA) 講座 継続教育制度 (CPE) 認定セミナー 2009年7月からTACでスタート!

TACのCPEは
クオリティーが
違います!

継続教育制度 (CPE) とは

継続教育制度 (Continuing Professional Education/以下CPE) とは、CIAがその称号を得た後も、常に専門職として相応しい能力・知識の開発を継続し、それらの称号を維持するに値することを証明することを目的とした制度です。内部監査実務に従事しているCIAの場合、2年毎に80CPE単位の取得が必要となります。尚、CPE単位を取得しなかった場合でも、試験合格の結果に影響はありません。

■CPEの対象となる活動

日本内部監査協会や他の公共団体・企業等が主催する正式な研修等に参加すると、単位を取得する事が出来ます。他にもCPEの対象となる活動がカテゴリ別に分類されており、カテゴリにより単位の上限が決まっています。

※CPEの対象となる活動の詳細は、日本内部監査協会にてご確認ください。



●セミナー担当講師●
アイ・イー・アーク コンサルティング株式会社

代表取締役 **近藤 利昭** さん
http://home.t03.itscom.net/iaarc/
CIA (公認内部監査人)
CCSA (内部統制評価指導士)
CPE (公認不正検査士)

【プロフィール】

1976年三井銀行 (現三井住友銀行) 入行。三井住友銀行監査部上席審査役、KFI (株) マネジャー、野村證券 (株) インターナル・オーディット部IT監査チームリーダー、IBMビジネスコンサルティングサービス (株) シニアマネージングコンサルタントを経て、アイ・イー・アークコンサルティング (株) を設立し、現在に至る。米国8年の海外勤務経験と欧州・アジア諸国への豊富な海外出張経験を活かし、97年ニューヨークで北米拠点の内部監査を管轄する米州検査室を開設。COSOを基本とする内部統制及びリスクアプローチ監査を現地プロから修得。99年帰国後、公表された金融検査マニュアル対応では検査から監査への抜本的な改革へ尽力。金融庁を始め、米国、英国、シンガポール等主要金融当局へ監査組織や監査手法を説明。三井住友銀行合併後、新設された監査部で、グローバルなリスク評価モデルを構築。02年4月よりプロの内部監査人として、監査体制整備、品質評価 (QAR)、J-SOX等コンサルティング活動を始め、講演、研修、執筆等実務に裏付けされた内部監査業務に邁進。日本の内部監査の発展をライフワークとし、地道な活動を続ける。

セミナーのタイトル

- 1 内部統制と内部監査、その共通点とアカウンタビリティ
- 2 リスクアプローチ監査の心髄
- 3 不正行為と内部監査

★3回一括申込みの場合、講師著書
「内部監査を活かす術 (金融財政事情研究会発行)」
を贈呈いたします。

セミナーの詳細内容については、裏面をご覧ください!

受講料・開講地区・日程・CPE単位について

●開講地区…渋谷校 (クラスNo.L1)

コースNo.	コース名	受講料 (5%税込)	日程	CPE単位
109-001	第1~3回 一括申込	¥25,000円	下記参照	下記参照
109-002	第1回 内部統制と内部監査、その共通点とアカウンタビリティ	¥10,000円	2009年7月4日 (土) 10:00~12:30	3
109-003	第2回 リスクアプローチ監査の心髄	¥10,000円	2009年11月28日 (土) 10:00~12:30	3
109-004	第3回 不正行為と内部監査	¥10,000円	2010年4月3日 (土) 10:00~12:30	3

●本セミナーは、入会金¥10,000は不要です。

CPE単位の取得について

- 内部監査に従事しているCIAの場合、2年毎に80CPE単位の取得が必要になります。
- 日本内部監査協会に入会すると1年毎に20CPE単位を取得することができ、残りのCPE単位については、基本50分/1CPE単位のセミナーを受講することとなります。
- TACで取得できるCPE単位は、1回のセミナーにつき3CPE単位となります。
- 会員証が出席カードに相当し、この会員証 (出席印押印済のもの) が証明書類となります。

りますので、最低3年間各自で保管をお願いします。日本内部監査協会による「CPE報告書」の内容に関するサンプリングによる監査を行った際に、証明書類が提示できない場合は、報告内容が否認されることがあります。また、「CPE報告書」は、参加者の方がご自身で日本内部監査協会に申請することになります。

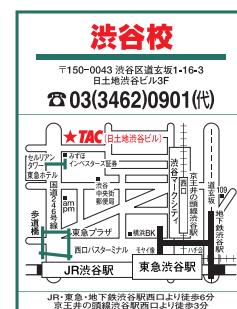
- TACのセミナーでは、レジュメ (持ち帰り可) による講義が2時間30分行われ、討論や試験などはありません。
- CPE単位を取得しなかった場合でも、試験合格の結果に影響はありません。

お申込み上のご注意

- TAC各校受付窓口もしくは郵送にてお申込みください。
- e受付、大学生協等代理店でのお申込みはできません。
- 本セミナーは、教室講座 (渋谷校) のみの開講となります。配付資料は、開講当日に教室でお渡し致します。

- 本セミナーは、欠席時のフォロー制度の予定はございません。欠席された場合には、配付資料のみお渡し致しますので、本セミナーの開講校舎 (渋谷校) にてお受け取りください。
- 定員に達した場合、申込締切りとさせていただきます。

このセミナーは、CPE単位取得の認定セミナーとなっていますが、第一義的には、受講生の皆様に聴講していただくことを目的として実施致します。内部監査のスペシャリストが実務の最先端情報について講義を致しますので、奮ってご参加ください。



CIA継続教育制度(CPE) 認定セミナー

セミナーの内容

第1回

内部統制と内部監査、 その共通点とアカウンタビリティ

《講義内容》

1. 内部統制のキーワードを理解せよ
2. 内部統制の型
3. 会社法、J-SOXの内部統制の範囲
4. 内部統制を評価・改善する内部監査
5. 内部監査はリスクアプローチをめざせ

内部監査の専門家であるCIAにとって、内部統制の知識は不可欠です。それは内部監査の業務が内部統制の有効性の評価を通じて、経営環境の改善に貢献するからです。監査対象である内部統制の基本を知らずして満足な内部監査を期待することはできません。本講義の前半では、内部統制のキーワードに焦点を当て内部統制の基本型、会社法及び金融商品取引法との関係やリスクオーナーの概念など内部統制への理解を深めていただき、後半は保証活動やコンサルティングサービスを通じて内部統制の整備、運用に重要な責任を担う内部監査の本質などをわかりやすく解説します。

第2回

リスクアプローチ監査の心髄

《講義内容》

1. 効率性と有効性を実現するリスクアプローチ
2. 内部監査の運営基盤の整備
3. 個別監査の3つのステージ
4. 監査調書でわかる監査の品質

いま、内部監査の主流は“リスクアプローチ”といわれています。しかし、企業の内部監査を見わたすと期待されるほどに浸透していないのが実状です。監査のあらゆる局面において常にリスクを念頭に置くリスクアプローチは、監査の効率性や有効性を高める王道といえます。内部監査人にとってリスクアプローチの習得こそが生命線であり、監査の品質を裏付けることができます。本講座は、内部監査のリスク評価モデル、個別監査の各プロセスでのリスクアプローチの実務と品質評価の要点、監査調書の種類と基本要素など監査の基本を理解し、監査業務のパフォーマンスと品質を向上させることを目的としています。

第3回

不正行為と内部監査

《講義内容》

1. 企業不祥事と内部統制
2. 不正の特徴と兆候
3. 企業に導入される不正対策と効果
4. 内部監査の不正行為に対する役割

世間をにぎわすさまざまな企業不祥事は内部統制の綻びが原因といえます。また、内部統制自体が未整備で、いつ、いかなる時に不正が起きてもおかしくない経営環境も珍しくありません。投資家や顧客を欺く不正には必ず特徴や兆候があるといわれています。内部監査人は不正の兆候を知ることによって、不正を嗅ぎ分ける感性を磨くことができます。本講義では、企業不祥事の発生と内部統制上の要因、財務を含む不正の特徴や兆候、企業に導入されている不正対策などをわかりやすく解説します。不正に対する見識を高めることによって精度の高い業務監査を通じて、不正を未然に防止することが可能となります。